

## はじめに

本書は『収集』二〇二〇年六月号〜二〇二一年八月号に掲載させていただきました「寺社札入門」（カタログコレクション）をまとめたものとなります。

「寺社札」（寺社発行札）の定義については本文中にも触れていることからここでは省かせていただきますが、「藩札」とともに江戸時代の経済（特に西日本）を支えたものであり、古札を語る上で決して忘れてはならないものといえましょう。

さて、現在の日本の収集界を見るに、明らかに古札類は下火といわざるを得ないのですが、これにはやはり「収集の指針」となる参考書の乏しいことが一因ではないでしょうか（あるにはあっても出版より月日も経ち、入手難といった可能性が……）。

仮に既存の書に頼ることなく、個人で資料を読み解き収集を考える方がおられたとしても、比較的情報の多い「藩札」類はともかく、「私札」類に至っては実物はおろか発行記録すら残っていないものも多く、全くのゼロからのスタートともなるとよほどの覚悟がなければ進めない世界となってしまうに違いありません。

この「寺社札」についても、一部の札には公的に近い性格があるものの、基本的には「私札」類であり、記録等の残るものではありません。

全ては今に伝わる実物をもつての分類となり、全容の究明には先人の到達点（積み重ねられた知識）を始点とし、これからの収集家が常に一枚一枚の補充を続けていくより道はなく、一人でも多くの方に「興味を持っていただきたいところ」なのです。

本書は「寺社札入門」として、紀伊・河内のわずか四つの寺社札をご紹介させていただくにすぎませんが、これらは第一に取り組みやすいところであることと、できればこれまで少しばかり光の当たらなかった不遇な地域を優先したいという「思い」からの選定となっています（収録は『収集』誌への掲載順）。

また、本書はあくまでも「寺社札へのいざない」を意図したもので、マニアの皆様の渴きを癒すようなものではなく、すでにこの道を行んでおられる方にとつてはあまり必要とされるものではないかもしれませんが、私自身も初心の方がこれを踏み台として進んでいただけることを願ってまとめたものでもあり、「理解をいただけたら幸いです」。

なお、余録は「古札の世界」では比較的珍しい試みと思われるトピカルコレクションとなります。

「郵趣の世界」ではごく当たり前となる図案別収集ですが、古札でもソウヤトラなどの動物の他、大黒様や恵比須様といった神仏などのテーマで楽しむことができると思っていますので、ぜひ挑戦をなさってみてください。

目次			
はじめに		2	
名品紹介		4	
紀州・鑑蓮社札	(2020.6)	8	
河内・眞蓮寺札	(2020.8)	18	
河内・壺井八幡宮札	(2020.10)	27	
高野山・大徳院札	(2020.12)	34	
高野山・大徳院札	(2021.1)	39	
高野山・大徳院札	(2021.2)	44	
高野山・大徳院札	(2021.3)	51	
高野山・大徳院札	(2021.4)	61	
高野山・大徳院札	(2021.5)	70	
追加関連札	(2021.8)	78	
余録			
古札寛永のススメ	藩札編	(2021.6)	84
古札寛永のススメ	私札編	(2021.7)	93
ご協力者・ご協力機関		104	
主要参考文献		105	
おわりに		106	















		②
--	--	---

		①
--	--	---

		④
--	--	---

		③
--	--	---